

# 『文理・科目選択応援BOOK』を活用し 興味のある学問の文理バランスを知る

東洋高校(東京・私立)

東京都心に校舎を構え、進学力十人間力の育成に力を入れている東洋高校。全国制覇を成し遂げたこともある男子バレー部は有名だが、近年、難関大学への進学実績も伸ばしている文武両道の私立校である。

## 入学前からの自分史づくりで進路スイッチを入れる

同校では2年生に向けての文理選択は1年秋に行われる。後悔のない選択ができるよう逆算した結果、入学前の春休みから進路について考える機会をもつことにした。まず、生徒が行うのは「自分史」づくりに向けての作業。入学までにワークシートに沿って、子ども時代のことや、これまでうれしかったと感じたこと、悔しいと感じたこと、現在の自分についてや家族のこと、勉強のこと、そして将来なりたい自分などについて記入していく。入学後すぐに2泊3日のオリエンテーション合宿を実施。学校生活についてのガイダンスや仲間づくりワークショップなどを行う一方で、記入した

ワークシートをもとに一人ひとりがおよそ1000文字の作文「自分史」を書く。「ここで自分がどんな人間なのか振り返り認識してもらいます。これから進路を考えていくのだという最初のスイッチを入れます」と、教務主任の花角田枝先生は言う。

## 文理を真剣に考えてから夏のオープンキャンパスへ

その後も文理選択に向けての動きは早い。「自分で見て体験すること」を大切にしている同校では、1年の夏のオープンキャンパスに参加することを義務付けているからだ。6月末には、興味のある学問分野が文系なのか理系なのかわかる「文理・科目選択応援BOOK」を配付。HRの時間に生徒に読ませる。「従来、理系や文系の教科が得意か不得意かだけで文理選択をしてしまう生徒がいました。それは軽視できませんが、最初はず自分が何に興味があるのかという観点から文理を考えさせたかったのです」と言うのは理科主任の西岡義仁

先生。生徒は少しでも興味のもてるような学問があれば、「文理・科目選択応援BOOK」で概要を読む。そこには、各学問が文系と理系どのくらいの割合で構成されているのかを表した図がある。「目見て文系の割合が多いとか、100%理系とか、文系と理系のバランスが半々など、その学問の文理バランスがわかるのが助かります。シンプルに文理を考えられる構造なので、1年生の文理選択の入口にはうってつけの資料だと思います」。同冊子には78の学問リストが掲載されており、生徒たちはいろいろな学問を読み、「理系だと思っていたけれど、経済にも興味が出てきた」などと視野を広げる。「自分史づくりを経験しているので、自分について考える基礎ができていられるのかもしれない」と花角先生は言う。

これらの進路学習を経て夏のオープンキャンパスに参加すれば、ただ何となくの参加より充実度も増し生徒も主体的になる。「本物に触れる、専門家の意見を聞く。それが進路を考えるうえでとても大切」という西岡先生は、迷っている生徒にはオープンキャンパス以外にも公開講座などを積極的に案内。同校では生徒が家庭学習記録をつけているが、公開講座や模擬授業、受験相談会などに参加した生徒は家庭学習に対して意欲的になるという明確な結果が出ているそうだ。

「また、わが校では行事もキャリア教育の一環ととらえ、思い切り取り組ませています。苦勞さえ前向きにとらえられるようなイキイキと輝く社会人を育てたいのです」と花角先生。「そのためには、大学受験合格をゴールではなく夢をかなえるためのスタート地点ととらえられる進路選びをしてほしい」と西岡先生。文理選択は自分の未来を切り拓いていくための第一歩として位置づけ、今後もしっかり取り組んでいきたいそうです。

## 「自分史」のためのワークシート

自分の「過去」「現在」「未来」について箇条書きにしていくワークシート。これを参考に1000文字の自分史を書く。



教務主任・1年担任  
**花角田枝先生(左)**  
「教科も行事も部活もキャリア教育。人間力を身につけることが大切だと思います」  
理科主任・1年担任  
**西岡義仁先生(右)**  
「自分で考えて進路を決める。生徒の主体性を大切に指導しています」

